

タスクトラッキングシステム

TASK TRACKING SYSTEM

実は難易度が高い、作業員ごとの業務内容・時間の把握

紙での作業報告では情報収集に多大な工数がかかります。入退室管理に依存した管理では情報が粗すぎて正確な情報を得ることはできず、改善につながりません。WMSからはトランザクション情報しか得ることが出来ません。

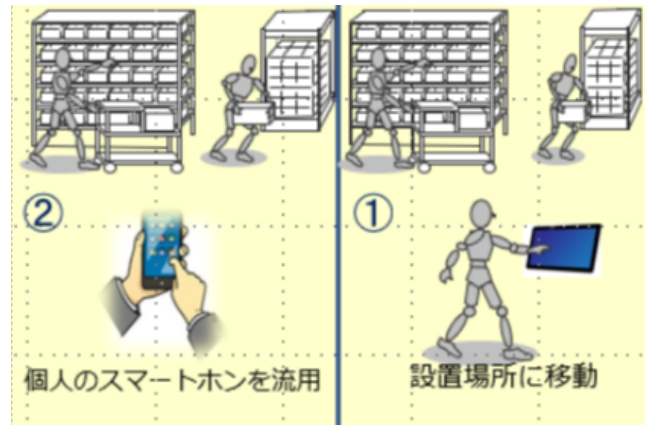
「タスクトラッキングシステム」では報告業務を簡素化し、作業員/業務ごとの時間を正確に把握することを可能にします。

速やかな作業報告業務の簡素、そして改善に向けた基礎固め

作業時間の取得方法は複数あります。その中でも「タスクトラッキングシステム」は導入障壁が低く、且つ導入メリットが高いのが特徴です。作業員ごと、荷主ごと、業務ごとの時間を取得できることで様々な情報分析が可能となり、改善活動につなげることができます。

複数荷主の管理（3PL向け）

同一の作業員が時間帯によって違う荷主の業務を行う運用も物流会社にはあるでしょう。作業員の業務内容を正確に把握することにより、荷主への正確な請求が可能となります。業務ごとの正確な生産性等を把握していることで荷主からの信頼向上にもつながります。



メリット



業務を工程ごとに分類し、要員管理や作業時間を把握することで具体的な事後分析を可能にする



要員ごとの工程別生産性などを可視化することが可能になり、適切なスキルトレーニングが提供可能になる



要員が従事している業務工程をリアルタイムに把握し、柔軟な要員配置を可能にする



作業員による工程別作業時間の報告業務や管理者の集計業務が可能となることで、働き方改革実践を推進する



今すぐ始めてみませんか？

1

導入が簡単で高い効果

2

情報の信頼性向上

3

改善に向けた基礎固め

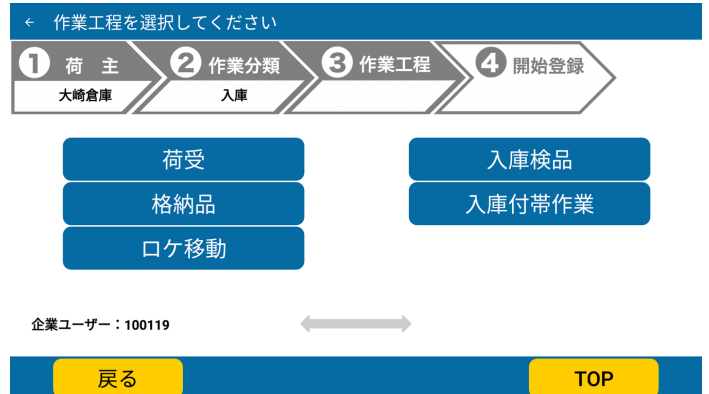
精度の高い
生産性把握で
改善活動に生かす

HOW IT WORKS

操作ステップ

- 1 荷主の登録**
各倉庫における管理対象の荷主を登録
- 2 作業分類・工程の登録**
管理対象とする作業を、分類と作業工程と2つの階層で登録
- 3 作業員の登録**
所属企業と従業員タイプ、スキルレベルなどを定義・登録
- 4 作業開始・終了登録**
作業の開始時と終了時にIDをスキャンすることで報告
- 5 レポート作成やデータ分析**
正確且つ詳細に記録された作業状況を元に各種レポートの作成や改善に向けての分析を実施

本文を追加



多様な管理方法の実現

作業分類・工程を任意で作成することが可能です。全社的または業種・業態ごとなど、標準化が進んでいる場合は管理対象とする作業分類や工程を本部主導で設定することで、それに合わせた運用を現場側にて踏襲することになります。

標準化の対象とならない拠点などにおいても、作業者/業務工程ごとの投入工数の把握が必要な場合、現場主導で分類や工程を登録し、作業者に登録を促すことも可能です。

フィジカルデバイスの適切な設置

作業員が入力処理を行うのに最適な場所を見極めて設置する必要があります。作業開始にそれぞれの作業内容を画面上で選択し、IDを髣してスキャン。そして終了時にはIDのスキャンのみで報告が完了、システム上に反映されます。

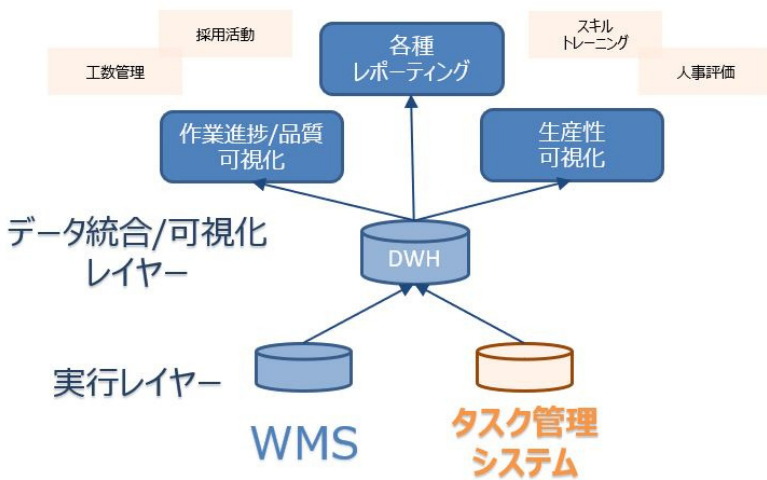
WMS実績との連動

トランザクションを詳細に取得するWMSのデータとの連動により、より具体的な作業結果が集計・分析可能となります。「作業工程システム」とWMSの業務工程を一律にすることで、自動的に作業員ごと、作業工程ごとの生産性が把握可能。

充実したサポートで安心



改善に向けたソリューション活用イメージ



お問い合わせ

株式会社イノベティブ・ソリューションズ



k-k-innovative-solutions

info@innovative-solutions.co.jp

03-6420-0462

〒141-0032
東京都品川区大崎1-2-3アートヴィレッジ大崎311